高知県自然観察指導員連絡会会報

ネイチャー高知

No42　　2014年1月31日発行

今年の十二支は午で「馬」、昔はもっと身近な動物だった気がしますが、今は競馬場でないとお目にかかれなくなりました。身近なところで馬に関することを書こうとしましたが、ウマく書けず、手元にある植物の画像ファイの中から「ウマ」のつく植物を拾いだして紹介することとします。

ウマノアシガタ

キンポウゲ科の多年草で、道端や農地の周辺によく咲いているのでご存じの方も多いと思います。
ウマノアシガタとは「馬の脚形」で、５つに浅く裂けたの根生葉が遠目に馬の脚の形に見えるからこの名前がついたとのことですが、ウマノアシガタの葉を見てが、馬の脚をイメージできる方は相当な想像力の持ち主だと思います。

ウマゴヤシ

ヨーロッパ原産で江戸時代に牧草として入ってきた多年草の帰化植物。ウマゴヤシは「馬肥やし」で、この草を飼料として馬に与えると馬がよく肥えることからこの名前が付けられたとのことですが、何か宣伝臭く感じます。土手や路傍などでよく見かけますが、コメツブウマゴヤシなど似たものも多く、渦巻型をして棘のある果実が見分けるポイントになります。

オオバウマノスズクサ

本当はウマノスズクサを紹介したかったのですが、探しても画像が見つかりませんでした。物部川の土手で写したつもりでしたが、観察しただけで写真には撮らなかったようです。ウマノスズクサは「馬の鈴草」で、馬の鈴に似ていることからつけられた名前です。似ているのは花でなくて果実です。オオバウマノスズクサは、ウマノスズクサに似て葉が大きいことからつけられた名前ですが、果実もウマノスズクサに比べ長くて大きく小さい瓜のような形をしており、鈴には見えないですね。

その他、ウマスゲ、ウマノミツバがありますし、馬を駒としてコマツナギなどもあります。午年にちなんで馬にゆかりのある野草を観察してみてください。（坂本彰）

わたしのフィールドノート

サンタクロースの贈り物

田城　光子

幼い頃、貧しい我が家にもサンタクロースはやってきた。妹や弟と枕元に靴下を並べ、降る様な星空のむこうにあるあの山を越えて、サンタさんは今宵、どんなプレゼントを持って来てくれるだろうかと、わくわくしながら布団にもぐりこんだ。月日は流れ、子供たちや孫さえも大きくなって「サンタさん」というのも気恥ずかしい歳になった。ところが、そんな老境に入って、サンタクロースから素晴らしいプレゼントが届いた。それは、子供の頃からずっと眺めて育った山の、スギやヒノキの樹冠にそっと置かれていたのである。

２０１１年。高知県西部の国有林で、伐採の仕事に従事していた人が、見慣れない蔓があることに気づいた。牧野植物園に同定を依頼したところ、ヤマハンショウヅルであることがわかった、と聞く。

ヤマハンショウヅルはキンポウゲ科センニンソウ属で、平凡社の図鑑「日本の野生植物」によると草本に分類され、九州南部、屋久島、種子島、中国に分布するとされている。四国での生育はこれまで確認されておらず、個体数もあまり多くはない植物であるらしい。高知県植物誌で幡多地域を担当したわたしたちのグループも、全く気づかなかった。真冬の人工林で、こんなにたくさんの花を咲かせる植物がある、という認識がなかったのだ。

初めて本格的に三原村の今の山北側一帯で調査を行ったのは、２０１２年１２月２５日。前日から雪が降り寒い日であったが、積雪はなかった。雪が残っていると、ヤマハンショウヅルは見つけにくい。今の山林道を、途中で車を止めては、ヒノキやスギの林冠を遠望する。白く見える部分があれば、さらに双眼鏡やスコープを覗く。センニンソウによく似た花が見つかれば、それがヤマハンショウヅルである。そして、数ヶ所の生育場所が見つかった。健脚組が花を目指して山に登るが、林内に入るとまるで位置が判らなくなってしまった、と言ってすぐ下山してきた。別の谷では、運良くコルク質の発達した特徴的な蔓が見つかったが、花の位置ははるかヒノキの樹冠にあり、見ることができない。しかし、三原村で貴重な植物の保護活動に取り組む

写真：ヤマハンショウヅルの花　花弁は始め平開し、後に反曲する。

矢野啓介さんは、レンズ越しにではあるが、初めてヤマハンショウヅルの花を見ることができたこの日を「ヤマハンショウヅル記念日」と決め、大勢の人に観察してもらって、三原村の豊かな自然に触れて欲しい、と言っている。その後、誰でもが歩いて行く事ができ、まぢかに花を観察できる場所が見つかった。しかも、国内最大級ではないか、と思われる個体数の多さである。

ヤマハンショウヅルには、まだよくわからないことがたくさんある。四国では分布が知られていなかったものが、何故三原村と、三原村に隣接する宿毛市のごく限られた山林にだけ生育しているのか？植林後約４０～５０年たった人工林の中で、低いものでも樹高５～６ｍのツブラジイなどの広葉樹や、高いものでは２０ｍもあるスギ、ヒノキの樹冠に、途中、幹にはまったく巻きつかずに登り、葉柄で小さな枝などに巻きついて花を咲かせている。つかまった樹木と同時に育った、同い年だとすれば、ずいぶん寿命の長い草である。植林後、下草刈りで刈られなかったのだろうか。植林された樹木にとって、蔓は大敵のはずだが。この寒い時期、受粉を助ける昆虫は？花が終わって花柱が長く伸び、まるで仙人の髭か白髪のようになる小さな果実は、高い山の上から風にのって遠くまで飛んでいけるはずなのに、分布を広げないのもおかしい。

今から約１２０年前。牧野富太郎は、三原村に宿泊し、この一帯で植物採集をしている。その頃と今では、道路事情はまったく違っているし、牧野さんが実際に歩いた道は、この山のひとつふたつむこうの山だったと思われる。そして、季節は夏だった。その頃から、ヤマハンショウヅルはここに生育していたのだろうか。牧野さんが歩いた道にも、もし生育していたとしたら、花はなくともあの蔓を牧野さんは決して見逃しはしなかったろう。牧野さんも見なかったヤマハンショウヅルを、「牧野さんの歩いた道」を今歩いているわたしたちは、見ることができた。これまでにもらったたくさんのプレゼントは、どれも嬉しかった。なかでも、とびっきり素晴らしいクリスマスの贈り物となった、ヤマハンショウヅル。今、三原の山で、ほんの少し樹のてっぺんに雪が残っているように見えている。

写真：ヒノキと共に成長したヤマハンショウヅルの蔓。幹に並行して真っ直ぐ上方に２本延びている。

「へーえ」と驚いた話**草食系蟷螂**　　　　　　　　坂本　彰

１１月に開催した蛇紋岩地の植物観察会の際、カマキリがヤクシソウの花を食べる場面に遭遇しまた。「カマキリが植物を食べる？本当？」今まで見たことがなかったので少し調べてみました。平凡社発行の日本動物大百科の第８巻にカマキリ類についてその生態が詳しく紹介されています。それによると、「カマキリ類は例外なく肉食性で、しかも鎌で必ず捕えて食べる。」とあります。さらに、「時には小さいトカゲやまれにカエルなどもつかまえることがある。共食いもしばしば起きる」そうです。交尾の後、メスが相手のオスを食べるといったこともよく聞きますが、これも実際にあるそうで、なかなか強烈な肉食主義者のようです。そのカマキリがうまそうにヤクシソウの花弁を食べていたのですから「へーえ」です。

ネットの方の情報も検索してみました。Wikipedia には、「カマキリ（螳螂、蟷螂、鎌切）は、昆虫綱カマキリ目（蟷螂目、学名：Mantodea）に分類される昆虫の総称。前脚が鎌状に変化し、他の小動物を捕食する肉食性の昆虫である。」とあります。更に「カマキリ　花を食べる」で検索すると、YouTube に「花を食べるカマキリ」というのがアップされていました。（http://www.youtube.com/watch?v=xGxiqWF7QOO）こちらの方は、マリーゴールドの花の上に乗っかって一見食べているように見えますが、よく見ると「食べている」というよりは「舐めている」ように見受けられます。

蓮台のヤクシソウを食べるカマキリに戻りますが、こちらの方は、鎌でヤクシソウ

ヤクシソウの花弁を食べるカマキリ（高知市蓮台）

の花をつかまえて、「むしゃむしゃ」と音が聞こえてくるくらい花弁（舌状花）を噛んでいます。あまりにも食べている姿を撮ることに注意が行って、カマキリの全体像をとらえていなくて、種の特定

ができないことが本当に残念です。「草食系男子」という言葉がはやったのはだいぶ前になりましたが、カマキリの世界でも草食系が出現したのでしょうか。

カマキリの話のついでに、オオカマキリモドキを紹介します。この種は「モドキ」とあるようにカマキリの仲間ではなく、アミメカゲロウの仲間です。カマキリのような鎌を持ち、姿はハチに似せているという変わった昆虫です。前足はカマキリに負けないような鎌になっており、これで小型の昆虫を捕まえて食べるそうです。ただ、カマキリが鎌を顔の前（胸の前）に構えて、ボクシングのファイティングポーズのような恰好するのに対し、モドキの方は胸の横に構えますので、何とも迫力に欠けます。異なったグループの生物が、系統に関わらず身体的特徴が似通った姿に進化する現象を「収斂進化（しゅうれんしんか）」といいますが、カマキリとカマキリモドキの鎌を持った姿は一種の収斂進化の一例と考えられています。その上で、更にセグロアシナガバチに擬態していると言われる姿は、「何を考えているのか・・・」と問いかけたくなります。小型の昆虫を補足するのであれば、強面のするセグロアシナガバチでなく、他の昆虫が恐怖感を持たないような、もっといえば餌になる昆虫が寄ってくるような姿に進化すべきだったでしょう。

オオカマキリモドキ（四万十町松葉川）

タンポポ調査に参加しませんか

タンポポ調査とは

「タンポポ調査」は 1970 年代、環境の状態を調査するための手法として、大阪で開始されました。1974 年には「市民参加型調査」として多くの市民が参加し、それ以来５年ごとに継続的に調査が行われてきました。高知県では、西日本 19 府県で実施された「タンポポ調査西日本 2010」より参加し、250 名の市民の方にご協力いただき県内に 11 種類のタンポポが生育していることがわかりました。

タンポポ調査の目的

・タンポポを用いて環境変化による分布の変化を把握する。
・タンポポ属各種の分布状況を記録する。
・これらの調査を通し、多くの人に自然に目を向けるきっかけをつくる。

調査期間

2014 年３月１日～５月 31 日
2015 年３月１日～５月 31 日

調査に参加してみようという方は

高知県立牧野植物園　教育普及課　伊藤千恵
TEL：088-882-2723　　FAX：088-882-8635
E-Mail：ito@makino.or.jp
まで、ご連絡ください。

高知県内で注目すべき種

２０１０年の調査では、良く知られている在来のシロバナタンポポや外来タンポポ（セイヨウタンポポ、アカミタンポポ）の他にも多くの在来種が確認されました。その中のいくつかを紹介します。

ツクシタンポポ

愛媛県との県境に近い標高の高い場所で確認されましたが、生育地数個所と少ないです。写真のように、太陽があたってもほとんど開かないので探しにくいことが影響しているのかもしれません。生育環境としては、開けた草地に多いようです。５月に天狗高原、地芳峠、大野が原方面へ出かけられる方は注目いただきたい種です。

キビシロタンポポ

2010 年に大豊町の定福寺、梶ヶ森周辺で見つかりました。
花の色は白色ですが、シロバナタンポポとは、総苞外片が広がらない点が大きく違います。
愛媛県で見つかっていますので、高知県内でも大豊町以外で分布している可能性があります。
（写真左：シロバナタンポポ　中・右：キビシロタンポポ）

クシバタンポポ

櫛の歯のような葉に特徴があります。大豊町、旧物部村を中心に県中・東部の標高 200mより高いとことで確認されていますが、安芸市では確認例が少なく、馬路村では未確認です。愛媛県では、石鎚山の東の方で確認されていますので、高知県でも中央部から西にかけての山間部でも分布している可能性が高いと思われます。山間部の集落近くの空き地を探してみてください。

キバナシロタンポポ

シロバナタンポポの頭花が薄黄色のものをキバナシロタンポポと呼んでいますが、実態はよくわかっていません。シロバナタンポポで、１つの個体で頭花がいくつかあるうちの１つが薄黄色のもの、シロバナタンポポの集団の中に頭花すべてが薄黄色の個体が数個あるもののほか、少ないですがキバナシロタンポポが集団で生育している場所も確認されています。右の写真は、１つの個体に白い頭花と薄黄色の頭花をつけている例です。

総会・研修会のお知らせ

定例総会・研修会を次のとおり開催しますので、出席をお願いします。
日時　２０１４年３月２日（日曜日）　午前１０時～１２時
場所　高知市旭町３丁目 11　こうち男女共同参画センター「ソーレ」研修室３
日程　研修会１０時～１１時 00 分　質疑応答（１１時～１１時２０分）
　　演題　いの町の植物（仮題）　講師　鴻上泰（土佐植物研究会会長）
　総会　１１時３０分～１２時
出席・欠席の連絡（欠席の場合委任状）を同封のハガキでご連絡ください。

行事案内

カンブリア紀から白亜紀を生きた魚たち「化石水族館」　(1/29～3/9)

【日　時】　2014 年 1 月 29 日（水）～3 月 9 日（日）
　　9:00～17:00（最終入館時刻 16:30）　毎週月曜休館
【場　所】　「越知町立 横倉山自然の森博物館」
　　高岡郡越知町越知丙 737 番地 12
【料　金】　入 館 料
　　大人 500 円、高校・大学生・400 円、小・中学生・200 円
【問合せ先】
　窓口：越知町立「横倉山自然の森博物館」
　電話：0889-26-1060 FAX：0889-26-0620
　E-mail：yokogura@town.ochi.kochi.jp

会費納入のお願い

２０１４年度の会費の納入をお願いします。金額は年額（１月から１２月までです）1,000 円です。納入方法は郵便振替が安価で便利ですので、郵便局備え付けの振替用紙を利用して、振込みをお願いします。（ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は口座振替も利用できます）
郵便振替の振込口座番号は　01630-9-41422
加入者名は　**高知県自然観察指導員連絡会**　です

「ネイチャー高知」高知県自然観察指導員連絡会会報
NO　42
事務局　780-8075　高知市朝倉南町 3-51-1　坂本彰　方
TEL&FAX　088-850-0102
E-Mail　s-akira@mvd.biglobe.ne.jp